令和４年度　羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録
【要旨】

日時　令和４年８月３１日（水）１９:００～２１：２０
場所　羽咋市役所　４０１会議室
〇出席者

会　　長：松田　孝司　（羽咋市社会福祉協議会会長）
副 会 長：伊藤　幸雄　（羽咋市町会長連合会副会長）

委　　員：山川　知則　（はくい市観光協会会長）
杉浦　　繁　（株式会社ハクイ村田製作所取締役工場長）
西　　和美　（羽咋市教育委員会教育委員）
寺島　　昭　（日本政策金融公庫金沢支店長）
安田　佳史　（株式会社北國新聞社羽咋総局長）
松村　裕子　（株式会社中日新聞社北陸本社通信局長）
西　　敏之　（西司法書士事務所代表）
番匠　未樹　（羽咋市青年団協議会会長）
河島　佳江　（羽咋市各種女性団体連絡協議会会長）
中村　康徳　（羽咋市スポーツ協会会長）
濵辺　健太　（公募委員）
吉野　廣信　（公募委員）
中田　輝子　（公募委員）
オブザーバー：笹川　裕樹　（石川県中能登総合事務所所長）
アドバイザー：髙山　純一　（公立小松大学サステイナブルシステム科学研究科教授）
平子　紘平　（国立大学法人金沢大学先端科学・社会共創推進機構
特任助教）

〇欠席者

委員：藤本　裕子　（羽咋市商工会理事）
髙木　　貢　（はくい農業協同組合総務部長）
出村　太一　（日本郵便株式会社羽咋千里浜郵便局長）
浜　　明　（七尾公共職業安定所羽咋出張所所長）
大山　久祥　（羽咋市校長会邑知中学校校長）
前多　佳吾　（羽咋市銀行会のと共栄信用金庫羽咋支店長）
上田　清春　（羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋事務局長）
オブザーバー：谷内　松彦　（北陸財務局総務課長）

市側出席者：岸　　博一　（羽咋市長）※あいさつ後、退席
山本　裕一　（総務部長兼総務課長）
清水　吉朗　（産業建設部長兼農林水産課長）
岡嶋　克己　（商工観光課長）
中島　一明　（都市づくり推進室長）
片山　みゆき（健康福祉課長兼地域包括ケア推進室長）
中山　信之　（学校教育課学務担当課長）
和田　美紀　（企画財政課長）
崎田　智之　（地域振興室長）
木村　繁成　（総務課課長補佐）
安達　　崇　（地域振興室室長補佐）
見附　敦史　（地域振興室地域振興・協働推進係長）
三星　佑紀　（企画財政課主任）
広島　麻鈴　（地域振興室主事）

会議傍聴者　：　１名

１．開会

２．市長あいさつ

本市の取り巻く課題としては、少子高齢化、人口減少が喫緊の課題となっています。前年度の出生数は 86 人と 100 人を切っております。また、本市の高齢化率は 4 月 1 日現在で 40.7%となっており、近い将来、二人に一人が高齢者となることが予想されています。

担当者から本市の人口推移について、第 2 期総合戦略の効果・検証結果について、報告がありますので、委員の皆様には評価をしていただきたいと思います。

羽咋市は観光都市でありますので、コロナによって経済面において大きな影響があったと思っています。そのため、市としてもコロナ対策を考えていく必要があると感じています。コロナ禍で事業が実施できないこともありましたが、これからはコロナ対策をしながら、いかにして事業を進めていくかが重要になってくると感じています。

コロナ禍であっても市民と協働で事業を実施していくことはもちろんのこと、産官学で連携して事業を実施していくことが必要であると感じております。様々な形での取り組みが必要となってきますが、羽咋市の活性化に向けて評価をしていただき、効果を検証することで新たな施策を考えていきたいと思います。

未来の輝く羽咋のために取り組んでまいりたいと思いますので、皆様の忌憚のないご意見をお聞かせください。本日はよろしくお願いします。

３．委員等の自己紹介、事務局の紹介

（略）

４．総合戦略会議組織について（正副会長の選任）

事務局からの推薦により、会長に松田孝司委員、副会長に伊藤幸雄委員を選任。

５．会議の公開及び会議録等の取り扱い等について

（略）

６．報告事項

（１）羽咋市の人口推移について

（略）

（２）第２期総合戦略の効果・検証結果（案）について

（略）

７．重点審査及び一括審査

（１）■基本的施策名：（Ⅰ-2-（1））羽咋ブランドを活用したしごとの創出
□重要業績評価指標（KPI）：羽咋まちづくり㈱の売上額

【採決結果】総合評価：◎

（２）■基本的施策名：（Ⅱ-1-（3））新たな人の流れを創出する体験型観光等の推進
□重要業績評価指標（KPI）：体験型観光利用者数

（質疑①）Ｇ委員：体験型観光を利用した人に対してアンケートを実施しているか。アンケートを取っているのであれば、次の企画等に活かすこともできると思うので、どのような感想があるか教えてほしい。

（応答）岡嶋商工観光課長：現在、アンケートは実施していない。今後は体験型観光に参加した人の意見を聞きながら、どのように事業を実施していくかを考えていきたい。

（質疑②）Ｔ委員：実績値について、数値は柴垣でのＳＵＰ体験に参加した人数とのことであったが、これから砂像づくり等も行っていくのであれば、ＳＵＰ体験の人数だけではなく、砂像づくりの人数も含めた方がこれまでやってきた事業に対する効果を検証することができるのではないかと思う。

（応答）岡嶋商工観光課長：濱辺委員のおっしゃる通りだと思うので、何を実績値とするかは見直していきたい。

【採決結果】総合評価：○

（３）■基本的施策名：（Ⅲ-4-（1））総合的な学習能力の向上と支援
□重要業績評価指標（KPI）：小学校６年生の国語、算数の全国学力・学習状況調査

（意見）Ｖ委員：石川県が全国学力テスト１位で、羽咋市が県内トップだということであれば、子育て世帯にとって、とても魅力的なことであると思う。このような学習環境に子供を置いてあげたいと感じる子育て世帯も全国に多くいると感じる。だから、羽咋市は学力が高いことをもっと全国的にＰＲしていけば良いように思う。

自分の子どもをどこの保育園に通わせるか、比較検討して決める活動が盛んに行われている。しかし、小学校への活動は耳にしたことがない。そこで、市内の保育所や幼稚園と連携させて、高い教育水準に繋がっていくことをＰＲすることで市外からも通う人も出てくるのではないかと思う。

（応答）中山学校教育課学務担当課長：学校教育と幼稚園や保育所との連携は重要と考えている。保育所、幼稚園に実際に足を運んで園児の様子を伺うことや、保育所や幼稚園の先生方と意見交流の場を設ける等、これまでも交流を行ってきたが、今後もご意見を参考に連携を行っていきたいと思う。

また、学力のＰＲについてはいただいたご意見を参考にしながら、子どもたちの人格形成や成長を含め、学力だけではなく広い意味での子育てしやすい羽咋市というものをＰＲできればと思う。

（質疑①）Ｃ委員：ＫＰＩの目標値について、県平均の５ポイント以上となっているが、何を基に５ポイントと設定しているのか。

（応答）中山学校教育課学務担当課長：新聞等の発表でもあるように「石川県の学力が非常に高いという中で５ポイント以上を維持していくことが大切」ということで設定している。また、学力テストの点数だけに執着しないように取り組んでいきたいと思う。

（質疑②）Ｔ委員：「ＨＡＫＵＩＳＭ」ということで、市内の学校の先生方はどれくらい活用しているか教えてほしい。

（応答）中山学校教育課学務担当課長：これまで培ってきた教員の指導技術にＩＣＴを組み合わせることによって、子どもたちが深く考える場面を設定することがより容易になったと感じる。児童のＰＣに入っている、子どもたちの学習した考えを一覧で確認できるアプリのデータによれば、羽咋市のアプリの使用率は全国でもトップクラスとなっており、ＨＡＫＵＩＳＭがかなり浸透してきているように感じる。

【採決結果】総合評価：◎

（４）■基本的施策名：（Ⅳ-4-（1））JR 羽咋駅周辺の整備
□重要業績評価指標（KPI）：旧マルシェ跡地の整備完了（R6 年度まで）

【採決結果】総合評価：◎

（５）■基本的施策名：（Ⅴ-4-（1））地域づくりに貢献する民間企業等との連携による企画の実現、共同研究の実施
□重要業績評価指標（KPI）：地域づくりに貢献する民間企業等と連携した新事業数

【採決結果】総合評価：◎

８．一括審査

資料１評価（案）のとおり、評価を決定。

（６）その他意見

（意見）Ｂ委員：「（Ⅱ-1-（1））観光資源の魅力を活用した官民・広域連携による誘客の促進」について、現在、妙成寺の国宝化に向けての調査がコロナ禍により、なかなか調査ができない状況となっているが、知事からも国宝化に向けて力を入れてくれると聞いており、羽咋市としても観光資源として妙成寺を活用していくということなので、協力して妙成寺の国宝化に向けて取り組んでいきたい。

千里浜と気多大社には観光客は訪れるが、それ以外の観光地になかなか人が訪れることができていないと感じている。妙成寺が国宝化となれば県内初の国宝となり、観光客を増やすことができると思うので、皆様には応援して頂きたい。

滝谷町のリサイクルセンターを活用して、ごみ焼却場を建設すると聞いている。また、ごみの焼却のために６０メートルほどの煙突が必要になるとのことだが、妙成寺の景観に影響する可能性があるため、折衷案がないか協議を重ねている状況である。

妙成寺の周辺整備をごみ焼却場の建設とともに考えていく必要があると感じている。周辺整備やごみ焼却場の建設等を総合的に考えながら、施策を推進していただければと思う。

（意見）Ｕ委員：「（Ⅱ-1-（1））観光資源の魅力を活用した官民・広域連携による誘客の促進」について、妙成寺の心柱についての勉強会を開くことで、話題となり有名になることができるのではないか。

また、羽咋市は寺などの文化財が多くある土地であるので、豊財院を含めた観光ルートを創設してみてはどうか。

（応答）清水産業建設部長：妙成寺の国宝化については、妙成寺と教育委員会で協力して取り組んでいる状況である。豊財院については、「白ぎつね伝説」をモチーフに毎年、邑知公民館が永光寺から豊財院までの健康ウォークを実施しているので、ＰＲしていきたい。

９．講評

（１）オブザーバー：石川県中能登総合事務所　笹川　裕樹　所長

少子化が進んでいる要因として、未婚化、晩婚化が進んでいることが挙げられる。

特に男性の生涯未婚率が上昇している状況が県全体の傾向として見られる。

背景としては、女性の進学や就職に伴う転出が大きい。とくに 20 代の女性の数が男性に比べて極端に少なくなっている。

令和 3 年度の男女別の推計人口を見てみると、羽咋市では 10 代、20 代の男女を比較すると、男性に比べて、女性の減少率が大きくなっている。

女性が都市部に流出するのは、女性にとって働きにくい環境があるのではないかと思う。だから、女性が能力を発揮して働ける環境の整備を行うことが大事であると感じる。

羽咋市も若い女性を対象とした施策を重点的に実施するとのことであるが、子育てをするような世帯を呼び入れるような施策が弱いように感じる。

兵庫県の明石市では子育てができるような 5 つの無料化を独自に実施しており、子育てに手厚い市として人口が増えている。

こういった事例もあるので子育て世帯に対する施策に対して、もう少し力を入れても良いのではないかと思う。

次に、人口減少時代に対応した持続可能なまちづくりについて、様々な地域の課題があると思うが、課題を解決するために女性、若者、高齢者等のコミュニティビジネスを支援している自治体がある。

例えば、神奈川県藤沢市ではコミュニティビジネスを創出するために、産官学で構成されるコンソーシアムを作って、相談会やセミナー、発表会等を開催している。

羽咋市でも地元の人から地域の課題を解決していけるような支援があっても良いように感じる。

（2）アドバイザー：公立小松大学サステイナブルシステム科学研究科
髙山　純一　教授

日本全体で人口減少が進んでいる中で、人口を増加させるということは難しい事のように感じる。石川県全体でみても、人口減少や高齢化することが懸念され、能登の方でも人口減少率が高く高齢化率も高くなっている。また、人口が減っていく中では、交流人口や関係人口の拡大が重要になってくると思う。

基本目標Ⅰについて、羽咋市が魅力ある仕事を創出するために 6 次産業化を行い、商品の開発を進めたのは非常に良いことだと思う。また、6 次産業化した商品をふるさと納税の返礼品にしたこともPR 効果やネット販売の促進が期待でき良かったと思う。今後は SNS でも発信して PR を行うことも大事ではないかと思う。

基本目標Ⅱについては、羽咋市に宝は沢山あるが、その中でも千里浜と妙成寺と神子原の３つが他の地域にはない羽咋市の宝ではないかと思う。この３つを個々に魅力を発信していくことはもちろん、連携させて魅力を発信させることが重要であると思う。例えば、砂像作りだけを発信するのではなく、妙成寺と上手く連携して魅力を発信していくというように、工夫しながら、連携させて魅力を発信することが大事ではないかと思う。

基本目標Ⅲについては、本市は全国トップクラスの教育水準であるので、維持をするためにも校外研修やインターネットを使ったオンライン研修を続けていくことが大事ではないかと思う。

基本目標Ⅳについては、羽咋駅周辺の施設、道路、河川を、一体的な開発としてきちんと取り組んでいる点が良いと思う。さらに羽咋市では官民連携 PFI 事業として取り組んだ点が非常に良い。今後、遊休地や施設といった公共施設の維持管理の経費が掛かってくることが予想されるので、先を見越して、第二弾、第三弾の官民連携事業を検討していくことが大事ではないかと思う。

最後の基本目標Ⅴについては、人口減少自体に対応した持続可能なまちづくりを進めていくことは難しい事であると思う。取り組みを一つや二つ行っただけで持続可能なまちになるわけではないので、プロジェクトごとに進行管理を行いながら、事業を継続させていく必要があると思う。また、羽咋市だけでできない施策については、他団体と連携しながら行うことが大事ではないかと思う。

（３）アドバイザー：国立大学法人金沢大学先端科学・社会共創推進機構
平子　紘平　特任助教

羽咋市には、仕事紹介ツアー等、魅力的な企画があると感じるが情報発信力が弱いように感じる。金沢情報やフリーペーパーを活用する等、市外の人に対してより広く、情報発信を行うことで、各地域から人が訪れるのではないかと思う。

羽咋市内のキャンプ場を増やすことで、交流人口を増やすことができるのではないかと思う。また、市内にキャンプ場があれば、キャンプをする人の多くは羽咋市内で食材を調達するので羽咋市にお金を落としてもらうことができると考える。

羽咋市の地域の実情や課題について、住民が触れる機会が少ないように感じる。

去年、NPO の団体が鹿島路町の住民に対して、「地元にどのような方が住んで、どのような課題を抱えて、どのような思いがあるのか」調査を行い、報告会をされていたが、そのような取り組みを各町会で行うことで、地域や羽咋市に必要なことを客観的に数字で見て考える機会を創出できたら良いのではないかと思う。また、このような取り組みを行うことで地域の実情や課題を共有することができると考える。大学側でも何かお手伝いできることがあればぜひ協力させて頂きたいと思う。

これから高齢化率が上昇するので、前期高齢者も地域の活動に取り組んでいただけるようにしたいとのことであったが、そのためには健康寿命を延伸させる必要があると思う。羽咋市と金沢大学の共同で高齢者に関する共同研究も実施しているので、住民の皆様に具体的な成果をお示しできるように大学側としては頑張っていきたい。

最後に、広域連携で取り組みを行っていくことを検討しても良いのではないかと思う。金沢市では、近隣の四市二町が連携を行い、大金沢市として一体的に人口減少対策を実施していこうという考えが出始めている。だから、羽咋市でも近隣自治体等と、分担できると

ころは分担を行い、良いところは共有できるように、広域連携を検討していっては良いのではないかと思う。

１０．その他（事務連絡等）

（１）効果検証の報告書を事務局で取りまとめて、9 月の下旬から 10 月中に会長と副会長を中心に岸市長へ戦略会議として提言して頂く場を設ける。

（２）効果検証の報告書については、提言後、郵送にて送り、データにて欲しい方にはデータでも送付することを周知。

以上 2 点についての事務連絡を行った。